

福島第一・第二原子力発電所における感染症予防・拡大防止対策について

今冬の感染症の流行に備え、健康被害と作業への影響を最小限に抑えるため、下記の感染予防・拡大防止策を実施いたします。

1. インフルエンザ感染対策

(1) 期 間 平成24年10月～平成25年3月末まで

(2) 対 象 福島第一（安定化センターを含む）、福島第二原子力発電所、
Jヴィレッジに勤務する東京電力社員および協力企業作業員

(3) 内 容

①インフルエンザの予防接種

期 間 平成24年10月22日（月）～平成24年12月末（予定）

※終了時期はインフルエンザの流行状況により適宜変更

実施場所 Jヴィレッジ診療所

費 用 接種率を高める目的から無料

※11/21 現在 3843名接種

②日々の感染予防・拡大防止策

・検温や健康チェックの徹底（各自および作業前の管理者によるチェック）

・所内における感染状況の把握

感染者発生時には、サイト経由本店主管個所で発生状況把握

③感染疑い者発生後の対応

・隔離～退所（速やかな退所、発症日から原則7日は入構させない）

・職場での対応

感染疑い者が発生した職場は、原則7日間の不織布製マスクの着用を徹底

【参考】インフルエンザ対策実績

①今年度発症人数 2名

②昨年度実績

・予防接種人数 7,000名

・発症者 約150名（感染疑い含む）

※重傷者なし、単一職場での大量感染例なし

2. ノロウイルス感染対策

(1) 期 間 平成24年12月～平成25年3月末まで

(2) 対 象 福島第一（安定化センターを含む）、福島第二原子力発電所、
Jヴィレッジに勤務する東京電力社員および協力企業作業員

(3) 内 容

①食中毒対策

・調理従事者が行うべき感染予防・拡大防止策の周知

各社の食堂等、調理従事者に対策を周知

（調理台、調理器具の殺菌、二枚貝の加熱処理等）

②感染対策

【各社事務所での対策の徹底】

・朝礼や作業前ミーティングなどでの注意喚起

・感染疑い者に対する休務指示

・おう吐物や排泄物の処理

適切な処理方法により、次亜塩素酸ナトリウムで十分に消毒処理を行う

・手を触れる場所の消毒

感染疑い者の立ち入った場所の消毒の徹底

・発生時の迅速な連絡

③1F、2F、JVにおいて感染症状が発生した時の対応

速やかな退所、医療機関の受診、全面マスク使用時は返却後、別管理とする。

【参考】ノロウイルス対策実績

①今年度発症人数 4名

②昨年度実績

・発症者 11名

※重傷者なし、単一職場での大量感染例*なし

*：52名の集団体調不良はあったが、ノロウイルスは3名のみ。

（49名の診断結果は急性大腸炎）

効果的な手洗い方法

手洗いは、食中毒や感染症を予防するための基本

- 外出後、トイレに行った後、食事の前、おう吐物・ふん便を処理した後は、必ず手を洗うこと
- 石けんを使い十分にこすり洗いし、**水で洗い流す**こと
- こすり洗いは**30秒**が目安



汚れが残りやすいところは？

- 指先や爪の間
- 指の間
- 親指の周り
- 手首



おう吐物・排泄物の適切な処理方法



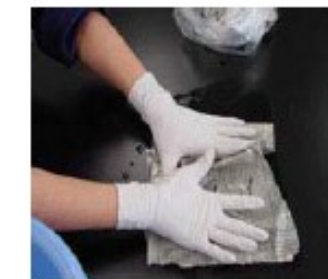
日ごろより用意しておくもの



1. マスク、使い捨てのガウンまたはエプロン、手袋をする



2. バケツに消毒液を作り、その中に新聞紙やタオルなどを浸す



3. まず、新聞紙で嘔吐物を取り除き、次にタオルで拭く



4. ふき取った新聞紙やタオルはビニール袋へ入れる



5. すべて入れ終わったビニール袋の口をしっかりと縛る



6. 嘔吐物入りのビニール袋を、別のビニール袋へ入れる



7. 同じ袋に使用した手袋なども一緒に入れ、しっかりと縛る

8. 嘔吐物をふき取った場所は、消毒薬で湿らせたタオルなどでしばらく(10~30分)覆っておく
※塩素系消毒薬は、金属を腐食させるので良く拭き取り10分くらいしたら水で拭く

9. しっかりと手を洗い、うがいをする